

インターバンクの声（2015年9月7日）

『煮え切らない』『はっきりしない』『優柔不断』、もてない男の特徴ではないが、上海市場が休場の中、日経平均下落の言い訳にもならない。なぜここまで下げる？といわれ、昨年末の17,450円までの下落で下げ止まるのか、犯人、原因が不明、疑心暗鬼が相場の需給を崩す。

ドル円が8月24日に116円15銭まで下落したのは中国・上海株の下落、ダウの1000ドル以上の下落といった明確な理由が見え、上海、NY株が落ち着きを取り戻すとドル円も121円75銭まで反発。ドル買いかと思えば下落、一段安かと思えば反発、ディーラー泣かせの相場が続いている。

そして、先週末の米8月雇用統計、就業者数が予想を下回ったものの、6月、7月分が上方修正され過去3ヶ月の平均は21.6万人とすれば合格点。さらに失業率が5.1%まで改善したほか、時間給賃金も前月比+0.3%とこちらも予想を上回ることに。こうなれば、9月16-17日のFOMCでの利上げは100%ない、とも言えない状況に。

先週木曜にECBドラギ総裁が追加緩和の可能性を示唆した一方で、煮え切らない発言を繰り返し理由も明確にせず8月のジャクソンホールを欠席したイエレンFRB議長。優柔不断なイエレン議長には、今回の雇用統計の結果を受けての利上げ判断を迫るのは難しく、株価下落、株式市場の不安定さを言い訳に優柔不断な発言しか聞かれない可能性も。明確な方向を示さずにきた「つけ」が市場の不安を増幅しているのかもしれない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。